◆ 金ヶ崎周辺整備構想の考え方と方向性

「鉄道」と「港」の歴史　～時代背景（明治期以降）～

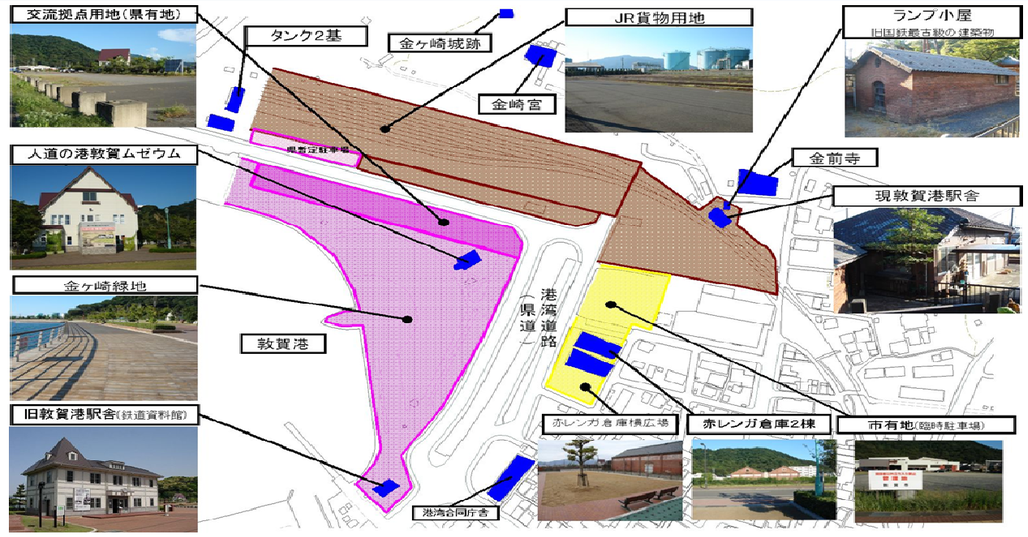
＜鉄道＞
- 1869年(明治2年)
  「琵琶湖湖畔～敦賀」決定
- 1882年(明治15年)
  金ヶ崎～長浜間鉄道開通
  ランプ小屋築造
- 1912年(明治45年)
  欧亜国際連絡列車開通
- 1941年(昭和16年)
  欧亜国際連絡列車閉鎖

＜港＞
- 1899年(明治32年)
  敦賀港開港場
- 1902年（明治35年）
  敦賀～ウラジオストック間定期航路開設
- 1907年(明治40年)
  第一種重要港湾に指定
- 1940年(昭和15年)
  ユダヤ人難民受入れ（命のビザ）
- 1941年(昭和16年)
  航路閉鎖

◆「鉄道」は国内3番目(①東京・横浜間、②京都・神戸間)に位置付け
◆「港」は国内4港(①横浜、②神戸、③下関・門司)の内の一つである
第一種重要港湾に指定
⇒日本国内外において敦賀は鉄道と港の重要拠点として位置付けられる

敦賀にとって「鉄道」と「港」は密接な関係

金ヶ崎周辺の既存ストック状況



ソフト事業の導入　～ものがたり（明治期以降）～

●ハード整備の中にソフトを組み入れる。
「鉄道」と「港」を中心に発展した異国情緒あふれる敦賀のまちには、

それに連鎖するように人道的な「ものがたり」も生まれた・・・

金ヶ崎周辺整備に関する基本的な考え方(案)

◆「欧亜国際航路」の玄関口として、敦賀のまちが最も輝いた、明治後期～昭和初期頃の時代を中心テーマにセット
◆旧線路敷き(現状活用)、ランプ小屋、赤レンガ倉庫等の既存ストックを活用
◆レトロな街並みも検討（民間活力の活用）
◆海側の金ヶ崎緑地、山側の金ヶ崎城跡、金崎宮等も活用
◆人道の港としての様々な「ものがたり」も生かす
◆2012年を市民参加による機運盛上げの目標年次にする
◆規模が大きいため段階的に整備（5年～10年等の長期計画）

考えられるまちづくりのテーマとしては、

「鉄道の夜明けと人道の港　敦賀」

◆ 委員会の目的と事務局提案

『鉄道の夜明けと人道の港まち敦賀』

★市民と行政が協働し、郷土史意識の醸成や誇りを持っていただけるエリア
★民間と行政が協働し、未来に繋がる賑わい交流拠点となるエリア
★市民が憩い・交流・賑いを創出して、来訪者をもてなすエリア

委員会の目的

「港まち敦賀」の象徴と言うべきこの金ヶ崎周辺エリアの将来像、ビジョンについて議論をして頂きたい。

整備構想ビジョン　事務局提案

◆ノスタルジー
⇒明治後期～昭和初期の敦賀港の雰囲気
◆ミュージアム
⇒港と鉄道の歴史を知り、伝える場所